

平成30年度授業改善推進プラン（調査結果分析シート）

西東京市立明保中学校

●全国学力学習状況調査（小6・中3）

	課題が見られた問題の概要	正答率	調査結果を踏まえた成果	調査結果を踏まえた課題
国語	登場人物についての説明として適切な物を選択する。場面展開や登場人物の描写に注意して読み内容を理解する	78.3	2年次の東京都の調査結果に見られた同様の課題の正答率60.8に比べると今回の問題における正答率は上がった。しかし、2年連続東京都の正答率を割っている項目である。場面や展開の中で人物の描写に注意して読み取る力に課題がある。	文章の展開に注意して内容を正しくとらえ、登場人物の心情をつかむ力をつけるために思考の手順に力を入れて読む練習を増やす。また、読書量を増やし長文読解演習を繰り返すことで読解法を身につけることも必要である。
算数・数学	歩いた道のり、残りの道のりの関係について、正しい記述を選ぶ	30.8	平均正答率は領域、観点、問題形式全てにおいて全国の平均正答率を上回っている。これは習熟度別少数数授業により、生徒の学習状況や実態に応じた授業が可能となり、苦手意識の強い生徒や理解が早い生徒等、個に応じた指導が可能となったからだと考えられる。	問題を数学的に考察し、数学的な表現を用いて説明することに課題があった。数学的に説明し伝え合う活動や生徒が自分で考えを説明することができるようにするための授業の工夫をしていくことが課題である。
	通常料金をaとしたときの団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかを求める計算からわかることを選び、その理由を説明する	12.5		
	A駅からの道のりが6kmの地点において、列車Aが通ってから列車Bが通るまでの時間をグラフから求める方法を説明する	13.3		
理科	化学変化を表したモデルを検討して改善し、原子や分子のモデルで説明できる	41.7	問題演習を繰り返し解くことが習慣化されたため、平均正答率は上がり、無回答率も平均の半分程度となっている。また、「観察・実験」を多く行っていることから、同項目や自然現象への関心・意欲・態度の項目の数値が高いことにつながっている。	地震・植物の基本的な知識などを忘れていることから、復習を兼ねて、日頃から既習の知識を利用する授業作りをする。また、学習した現象やその仕組みが、日常生活や便利な機器にどのように利用されているかということ結び付けられるようなまとめを行っていく。
	地震の揺れの強さが震度であること、S波による揺れが主要動であることの知識を身に付けている	44.2		
	植物の葉などから水蒸気が出る働きが蒸散であるという知識を身に付けている	83.3		

●児童・生徒の学力向上を図るための調査（小5・中2）

	課題が見られた問題の概要	正答率	調査結果を踏まえた成果	調査結果を踏まえた課題
国語	観点を明確にして話を聞いたり、異なる話を比較して聞いたりすること。	43.5	小学校までの学習内容を活用する力はほぼ定着している。全体的に話を聞き取る力はある一方、課題意識を持って聴く姿勢にまでは達していない。読み取り方についても同様の傾向がある。	観点や論点を細やかに整理し、構成し直す力に課題がある。複数の情報から論点を見つけ、比較・検討する経験を増やしていく機会を新聞記事を活用するなどして今後増やしていく。
	何をどのように表現しているのかを細かく捉えながら物語を読むこと。	44		
社会	古代の東アジアとの交流について、正しく理解すること	19.6	基本的な用語についての理解が定着している。資料の読み取りについては単数の資料の場合は比較的読み取れている。	基本的用語や類似用語を漢字等で正確に解答することに課題がある。人物史についての理解が進んでおらず、「誰が何をしたのか」という小学校での学習が定着していない。また、複数資料を関連付けて読み取る力が不足している。今後、書くこと、読み取ることを中心に基礎的なことを繰り返していく。
	中世の歴史的事象を正しく理解すること	43.5		
	東北地方の主な半導体工場と高速道路、主な港と空港の主題図を関連付けてまとめること	21.7		
算数・数学	図や文章を式に表現すること	33.7	全体としては都の平均を大きく上回ることができ、その中でも第二、三観点については14%を超えている。これは、習熟度別少数数授業により、個に応じた指導が可能となったからだと考えられる。	第一観点が都平均を下回ったことや、立式に関する問題の正答率が低かったことから、学習内容と日常との結びつきに課題があると考える。数学が生徒にとって身近に感じられるような教材を授業に取り入れていくことを今後増やしていく。
	割合の考え方を用いて方程式を立式すること	33.7		
	文章を読み取り、情報を取り出すこと	29.3		
理科	力の大きさとばねののびの関係性の応用問題	3.3	基礎的な問題の多くについては定着している。全体としては都平均を上回ることができ、思考判断表現や読み取る力は5ポイント以上上回れた。また、生物や地学分野では高い正答率となった。	特に物理分野への苦手意識が感じられる。応用問題への知識の活用や解決する力への課題が見られるため、計算演習や発展問題などを取り入れ、定着・活用を促していく。
	圧力のかかり方の変化について	9.8		
	質量パーセント濃度を求める問題	21.7		
英語 ※中学校のみ	質問に対して、2文以上のまとまりのある英文で答えられるようにすること。	28.3	全体としては都の平均を11%上回っている。また、教科の内容、読み解く力に関する内容ともに、分野による偏りは見られず、全体的に平均して高い正答率となっている。	読み取る問題については、単純に概要を読み取る力はあるものの、複数の資料を比較しながら読み取らなければならない問題については苦手意識がある。様々なタイプの英文を読む経験を積ませることが必要である。
	英文から、必要な情報を正確に取り出すこと。	30.4		
	複数の情報を基に、結論を導き出すこと。	32.6		